

令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ア 学力教養の充実
- イ 健全な心身の育成
- ウ 豊かな個性の確立

2 学校の特色

本校は、平成22年4月の海洋高校との再編統合から、今年で13年目を向かえ、普通科、薬業科、商業科、海洋科の4学科からなる総合制の新生滑川高校として10回目の卒業生を輩出した。そして、平成30年度入学生から普通科が従来の3学級から2学級となり、普通科2学級・専門学科1学級ずつの学年5学級編成である。

中学校や進路先企業からは、明るい学校、部活動が活発な学校として評価され、厚い信頼を受け、同窓生、地域の人々からも温かい眼で見守られている。

生徒は、純朴・素直で「高きを求める情熱」の生徒目標と「文武両道」の生活信条のもと、明るく活気に満ちた学校生活を送っている。

3 学校の現状と課題

学校における様々な教育活動において、教員組織を挙げて、生徒一人一人の個性を大切にし、自主・自律の精神を身につけさせることを基本としている。また、特色ある4学科を有することが互いの刺激となり、「滑高ゼミ」や「専門学科総合選択」の授業を通して、他学科の専門的知識を学ぶことにより、さらに滑高生としての自覚を高め、生徒、教職員ともに地域に信頼される学校をつくろうという気概に充ちている。

県東部を代表する総合高校として、普通科の進路意識向上を目指した特色化と、薬業科・商業科・海洋科の専門性の伝統と進化を追求し、興味あふれる高校像を広く地域に発信し、いかに中学生を魅了できるかを模索していきたい。そのための特色化の具体策、伝統継承の分析と新たな視点の検討等、本年度の教育活動に加えていきたい。また、本年度入学生からは新教育課程の導入となり、新たなカリキュラムの理解と実施に万全を期したい。

(様式2)

4 学校教育計画 ①学習活動 ②学校生活 ③進路支援 ④特別活動 ⑤その他

項 目		目 標 及 び 計 画	
(1)	① 教育課程	目標	各学科の特性を最大限に生かしながら、全学科連携・協力のもと、生徒の能力・適性や将来の目標に応じた系統的かつ、発展的な指導ができる教育課程とする。
	重点1①②③	計画	① 生徒の適性や教科・科目の学習内容および全体的なバランス、年次ごとのスムーズなつながりを考慮に入れ、教科・科目と特別活動との連携を図る。 ② 総合制高校の特性を生かした学科横断的な学習や、第2・3学年次全学科の選択科目群の設置により、生徒の多様なニーズに応える。 ③ 生徒の実態、学習指導要領、入試制度改革等について常に調査・分析を行い、望ましい教育課程の研究を継続して行う。
(2)	① 学習指導	目標	各教科・科目の目標を明確にし、生徒に応じた適切な指導を行い、基礎学力や学習習慣の定着を図る。また、生涯にわたって主体的に深く学ぶことができるよう興味・関心をもたせ、学ぶことの楽しさ・大切さを感じさせる。
	重点1①②③	計画	① 授業内容の精選や系統化を図るとともに、多様な評価方法の検討を行い、授業の効率化と内容の充実を図る。 ② 年間指導計画の検証を重ね、観点別学習状況の評価法に工夫を凝らし、定期考査や小テストの結果などから学力の定着状況を把握し、日頃の指導法の改善に努める。 ③ 学年毎に面接指導や諸調査等を計画し、生徒の能力・適性の把握に努める。また、学習の意義や部活動との両立を目標とする家庭学習の必要性を意識させる方法を研究する。 ④ 基礎的事項の指導を徹底する。さらに普通科では、より発展的な事項への学習意欲を高めるよう工夫する。国語(古典)・数学・英語においては 生徒の学習状況に応じて習熟度別授業を実施するだけでなく、探究心が より深まる指導に努める。また、専門学科では少人数制授業を実施するなど、個に応じた指導の徹底に努める。 ⑤ 本や新聞を読む習慣を身につけ、社会への関心や問題意識を高め、表現力やコミュニケーション能力を高める指導に重点を置く。
(3)	① 図書指導	目標	高い教養と豊かな情操を養い、創造的な人間形成に寄与する活動を進める。
	重点1①②③	計画	① 授業・「総合的な探究の時間」・「滑高ゼミ」などにおける読書・調査研究を支援するため、各教科等との連携を密にする。 ② 生徒図書委員会の活動を活発にし、生徒の求める図書・資料の充実に努め、効果的な要望の収集方法や提示方法を工夫する。
(4)	③ 進路指導	目標	生徒一人ひとりが自己の能力、適性を見出し、それらに応じた進路選択ができるようサポートする。
	重点3①②③④⑤	計画	① 1学年では、入学時に家庭学習の習慣を確立させるとともに、高校3年間・卒業後の展望を持ち、主体的に進路選択できるよう支援を図る。 2学年では、進路意識の向上を促し、学力の伸長を目指させる。3学年では、進路目標達成・実現のためのきめ細やかな指導・支援の充実を図る。 ② 学級担任等との面談や、外部講師による講演、ホームルーム等における進路研究、各種体験学習等を通して、進路意識の向上を図り、早期に目標を設定させる。 ③ 保護者会や保護者進路説明会で、情報・資料等を提供し、本校の進路指導及び生徒の進路選択・実現について理解・協力を得る。
(5)	④ 特別活動	目標	学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身の健全な発育を促進し、自主性と規律ある習慣を身に付けさせるとともに、有為な社会人としての資質を育てる。
	重点4①②	計画	① 学校行事(春季スポーツ大会や体育大会、文化部発表会等)の運営方法や企画内容は、クラス・生徒会・委員会に工夫をさせて、教育効果を高める。 ② ホームルーム活動や生徒会活動、部活動においては、生徒が自主的・自発的に生き生きと活動するようにする。 ③ 「究極の文武両道」である部活動と学習の両立を目指し、活動内容や活動時間を工夫し、生活を整えさせる指導を心がける。

項 目		目 標 及 び 計 画	
(6)	② 生徒指導 重点2①②	目標	生徒の自主性・自発性を尊重し、将来に渡って社会に対応できる誠実で健全な心身の育成や人づくりを目指す。
		計画	① 基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに規範意識の向上を図り、安全教育に努める。 ② 生徒の生活実態の把握や、様々な活動を通して生徒理解を深め、問題を持つ生徒への早期発見に心がけ、生徒の自己育成力の伸長を支援する。 ③ 生徒会・ホームルーム活動など生徒の意向を尊重し、良好な関係を保持しながら生活指導を推進する。 ④ 家庭や関係機関との連携を密にし、生徒の健全な育成に努める。
(7)	② 保健指導 重点2①②	目標	環境整備・美化活動に努めることにより、快適な学習環境を自ら作る態度を養い、健康で安心・安全な生活が送れる生徒の育成を図る。また、学校生活の中で不適応感を持つ生徒の早期発見と適切な対応に努め、問題解決や自立に向けて、家庭や関係機関との連携を取りながら支援を進める。
		計画	① 日常使用する場所の清掃や整備に関心を持たせ、清潔で落ち着いた環境を整える態度や習慣を身につけさせるよう指導する。 ② 健康診断・各種検診の結果をもとに、健康についての理解が深まるよう適切に指導する。また保健に関する情報を随時発信し、規則正しい生活習慣を自覚させ、健康保持や疾病予防の自己管理の徹底に努めさせる。特に歯科衛生保健対策の充実を図る。 ③ 学校保健委員会の開催及び自主的な生徒保健委員会・環境美化委員会活動の推進を図る。 ④ 施設、設備、用具の点検を定期的に行い、安全な環境づくりに努めるとともに、防災に対する意識を向上させる。 ⑤ 教育相談の企画運営を行うとともに、教育相談に対する教職員の意識向上に努める。 ⑥ 教育相談だよりの発行により、心の健康に関して生徒に啓蒙を図る。 ⑦ 教育相談連絡会を随時開催し、支援を必要とする生徒の共通理解を深めるとともに、教職員・保護者・関係機関等との連携を図り、早期対応に努める。
(8)	① ③ 薬業科 重点1・3①	目標	・自己の可能性を高め、向上心・向学心を育てる。 ・富山の地域産業を支え、貢献する人材を育てる。
		計画	① 資格・検定の合格率を上げる。 ② プロジェクトなどの活動を通し、地域へ貢献する。 ③ 課題研究・実習を通して主体的態度と実践力・協働意識の育成を図る。
(9)	① ③ 商業科 重点1・3①②	目標	・様々な資格取得や体験活動を通して社会人基礎力の向上を図る。 ・生徒の進路希望の実現を目指すため、上級の資格取得の充実を図る。
		計画	① 1年生ではインターンシップ、2年生は研修旅行での地域資源調査、3年生は販売実習など体験活動を実施する。 ② 簿記、情報処理を重点科目とし、各検定の合格率、3年生は3種目以上1級取得者の増加を目指し、生徒の学習意欲の向上を図る。
(10)	① ③ 海洋科 重点1・3①②	目標	・体験的な学習や課題探究型学習を基盤とした学習習慣の定着を図る。 ・基礎的・汎用的能力の育成を目指す。 ・水産・海洋分野の課題を見いだせる思考力と探究力を養う。
		計画	① 体験活動の充実を図り、学習習慣の定着と学力向上を図る。 ② 水産市場や環境問題における革新的技術の進展を学び、進路選択に必要な素養と知識・技術力の必要性を認識させる。 ③ 各種検定・資格等の取得を奨め、学習意欲を高める。 ④ 課題研究の調査・研究では、共通テーマ (SDG's) の下で活動する。
(11)	⑤ 地域との連携 重点5①②	目標	開かれた学校づくりに努め、地域との連携・交流を推進することにより生徒の健全な育成を目指す。
		計画	① P T A活動をより活性化し、地域との連携を深める。 ② 学校Web ページ、P T Aだより、教育安全情報提供システムなどをおして、本校の教育活動や地域との連携活動等を広く紹介することにより、地域との情報の交流を図る。 ③ 生徒の対外的な奉仕活動や、地域の人々との交流行事を推進する。

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5その他

令和4年度 滑川高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	1学習活動 (2)学習指導	
重点課題	教科指導の充実と学習習慣の定着	
現 状	・教科部会等で指導方法について話し合う時間の確保が難しいのが現状である。 ・家庭学習時間が少ない。	
達成目標	① 生徒が主体的に授業に参加できるように、指導方法の改善と充実を図る。 ② 学習意識調査において、参加型授業を受けたことがあると答えた生徒の割合	③ 主体的な学習態度や家庭学習習慣を定着させ、家庭学習時間の増加を図る。
	75%以上	学習意識調査において、4月の家庭学習時間より9月で30%以上増加、1月で50%以上増加した普通科の生徒が50%以上
方 策	・互見授業や研究授業などの機会を活用し、教科の枠を超えて授業研究を行い、改善に努める。 ・教科部会や校内メール、科内回覧等を利用して、よりよい授業のあり方等について研究・情報共有に努める。 ・年間指導計画の観点別評価に繋がる指導法を常に工夫する。	・学習実態調査、学習意識調査により、学習状況の実態と意識を把握するとともに、学年及び進路指導部等と連携して、学習時間確保のための対策を講ずる。 ・個に応じた指導により、希望進路への意識や自ら学ぼうという意欲を高めさせる。 ・課題は、適切な内容・量とするため、精選する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和4年度 滑川高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	2学校生活 (6)生徒指導 (7)保健指導	
重点課題	・スマホ依存の防止 ・環境美化	
現 状	・スマートフォン等の長時間の利用による生活習慣や学習習慣が乱れている生徒が多くみられる。また、SNSにおける個人情報の取り扱いや不適切な書き込みなどによるトラブルが生じている ・環境整備に取り組む姿勢は全体的には良くなっているが、清掃開始が遅れたり、清掃活動に積極的に参加できない生徒もみられる。	
達成目標	① スマートフォン等の使用に関する自己管理能力の育成とネット上のルールやマナーの徹底を図る。 ② 帰宅後のスマートフォン等の1日の使用時間が3時間以内の生徒の割合70%	① 環境整備、美化活動を習慣化するための環境美化委員会を中心とした自主的な活動を図る。 ② 年間8回 (各学期の美化週間、5月・10月の中庭花植え、7、8月除草や水遣り、8、12月の長期休業中の部活動におけるトイレ更衣室の掃除など)
方 策	・生徒の自発的な意識づけを行うために風紀委員や生徒会による注意喚起を行う。 ・適切な利用について保護者と連携して、家庭でのルールづくりを徹底させる。 ・研修会等を開催し、ネットに関わるトラブルの発生を未然に防ぐ。	・美化週間を学期に1回設定し、環境美化委員会を中心として、外清掃を含む清掃活動の強化を図る。 ・日常的に清掃を中心とした環境美化において全教職員でさらに粘り強く指導する。 ・花壇や中庭などの整備を行うことにより、情操教育の一助とする。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和4年度 滑川高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	③進路支援 (4)進路指導	
重点課題	進路目標の早期設定と実現の支援 本年度で全学年に導入された「スタディーサプリ」を活用して、指導の工夫や学習改善を行う。	
現 状	生徒たちは進路について考える必要性を自覚してはいるが、具体的に目標を決めてから実現に向けて努力する期間が短くなりがちな生徒が少なくない。	
達成目標	① 2年3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望大学への合格率(3年9月志望) ③ 成績が伸びた生徒の割合(1,2年)	④ 基礎学力の定着に向けて面談を行う ⑤ 希望する職種に就職が内定する生徒の割合
	① 80%以上 ② 60%以上 ③ 60%以上	④ 100% ⑤ 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導を通して進路目標を徐々に具体化させる。 進路講話や出前授業、研修旅行、大学訪問などの行事を充実させ、進路について考えるきっかけとする。 校内テストや外部模試の結果を基に自分の学力を把握させ、一層の努力を促す。 オープンキャンパスへの積極的参加を促すため、面接指導、保護者会等とおして参加する重要性を周知・認識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の様々な場面において礼儀やコミュニケーション能力が身に付くよう指導を行う。 生徒が自己の能力や適性を知り、どのような職種・企業でそれらを発揮できるのか考えることができる情報・機会を与える。 生徒の能力と適性に応じた個別指導を行う。 就職支援アドバイザーとの連絡を密にし、就職内定のための支援を行う。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和4年度 滑川高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	④特別活動 (5)特別活動	
重点課題	自主的な活動を促す組織作りと学業と部活動の両立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 指示を聞いて正しく行動をとることのできる生徒は増えたが、自らがリーダーとなって責任を果たそうとする生徒が少ない。 学校行事には熱心に取り組む生徒は多い。しかし、与えられた活動に乗るだけで、自ら改善点を考えたり向上させようと関心を持つ生徒が少ない。 部活動は全員加入制を採用しており、高い目標を持って熱心に取り組んでいる。 学習と部活動の両立を図るための指導が十分といえない。 	
達成目標	① 学校行事やホームルーム、生徒会活動等において役割や責任を持ち、積極的に関わることができたと感じる生徒の割合	② 学習と部活動の両立を目指して、部活動の内容や時間を工夫し、充実感を持った生徒割合
	・80%以上	・80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各行事や各種取り組みにおいて、生徒が主体的に活動できるよう動機付けをする。 組織や役割分担を明確にすることで、リーダーを育てると共に、互いに連携し支援し合えるように指導する。 各クラスに学級長を配置し、生徒議会などを通してクラスの意見を吸い上げ、学校全体で行事や生徒会活動に関わりあえる組織作りを意識させる。 先を見通したHR計画、またテーマの設定や討議資料の作成、事前研究などの準備をすすめ、その反省をする。 生徒自らが学校行事・生徒会活動について、企画・アイデアを発案できるムードを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部の目標を明確にし、その達成に向けて計画的に取り組む。 積極的に休養日を設け、活動にメリハリを付ける。 部活の開始前、終了後の指導を強化し、家庭学習への取り組みについても指導する。 部活動指導員やスポーツエキスパートを活用し、教員の負担を軽減させながらも部活動の活性化を図る。 生徒会・学級長や部活動代表者を集め携帯電話のマナーや使用について、共通理解を深めるように指導する。 担任以外の部活動顧問も面談を行い、高校生活の充実、進路実現、「滑川高校生らしい(進学・就職)究極の文武両道」を目指し、指導する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和4年度 滑川高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	① 学習活動 ③進路支援 (8)(9)(10) 専門学科指導		
	< 薬 業 科 >	< 商 業 科 >	< 海 洋 科 >
重点課題	資格取得の充実	資格取得（全商）の充実	① 水産関連等の資格・検定取得の推進 ② 放課後アクティブラーニングの活性化
現 状	・資格取得が生徒の学習意欲を引き出している。 ・部活動と学業の両立を目指している。	・検定試験の内容が新課程になって変更され、難易度も高くなっており、合格者数が心配される。	・基礎的な教科の学力不足・各種検定・資格試験の合格者数が伸び悩んでいる。 ・恒常的に家庭学習時間の不足が認められる。学力向上に費やす時間や意識が薄れている。 ・環境活動発表や魚食振興のための外部との協働に海洋クラブが活躍する状況にある。
達成目標	①学年ごとの危険物乙種第4類取得者、危険物乙種全類取得者、危険物以外の資格検定に取り組む。 ・危険物乙種第4類 1 学年 80% 2 学年 90% ・危険物乙種全類または甲種 2 学年 50%、3 学年 80% ・甲種と登録販売者合格者の合計で10名以上を目指す。 ・品質管理検定の合格者増。	① 新課程の簿記、情報処理を重点科目として、検定試験の合格者数。 ② 3 年生は3 種目以上1 級取得者の人数。 ① 2 級で9 0 %以上 ② 7 0 %以上	・水産関連等の資格・検定取得数の向上 ・マリンマイスター申請者率の向上（全体の底上げ） ・海洋クラブ活動の積極参加を昨年比で比較し、質や量を検討 ・1 人年間3 つ以上 ・申請率 85%、プラチナ・ゴールドが申請者の35%以上 ・昨年比で質・量を比較
方 策	・危険物乙種全類または甲種の取得を目指し、学力補充を支援する。 品質管理検定に取り組む。 その他の資格（P 検、英検、漢検など）で基礎学力を充実させるよう意識付けをする。	・ICT の効果的な活用。 ・観点別評価を効果的に活用し、生徒の主体的学習を促す。 ・放課後補習の実施。 ・生徒個々の学習状況を担当で把握。 ・3 年の課題研究に簿記検定試験コースを設け、指導の充実を図る。	・普通教科とは別に基礎学力の補充を目的とした問題集を課題にし、意識の向上を促す。 ・資格への意欲向上、取得 を目指し、個別対応を充実させる。 ・意欲的な生徒への参加を促し、継続的な支援を行う。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和4年度 滑川高等学校アクションプラン - 6 -

重点項目	⑤ その他 (12) 地域との連携・協力	
重点課題	PTA 活動の活性化	
現 状	・役員会について、第1回90%、第2回77%、第3回64%、第4回74%の参加率であった。 ・PTA だよりを年3回発行している。 ・滑川高校ホームページやリアルタイム共有システムによる情報発信を行っている。HP の更新がやや停滞していることにより、学校の魅力を伝えきれていないところもある。	
達成目標	・役員会の高い参加率の維持 ・70 パーセント	①ホームページの更新 ②リアルタイム共有システムへの登録 ①迅速な情報発信と内容の充実 ②全学年保護者登録100パーセント
方 策	・PTA だよりなどを通して、PTA 活動への関心を高め、参加を促す。 ・役員会の案内を早めに配布し、出欠確認を行う。 ・ホームページにPTA 活動の様子をこまめにアップし、活動への理解・関心を高める。	①情報活用委員に年間の学校行事を前もって伝えることで迅速な発信に努める。また学年通信などの学年からの連絡も必要に応じて行い学校としての魅力を発信していく。 ②保護者への改善アンケートも行いながら、未登録者への呼びかけを随時行っていく。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)